



大分の森づくりストーリー

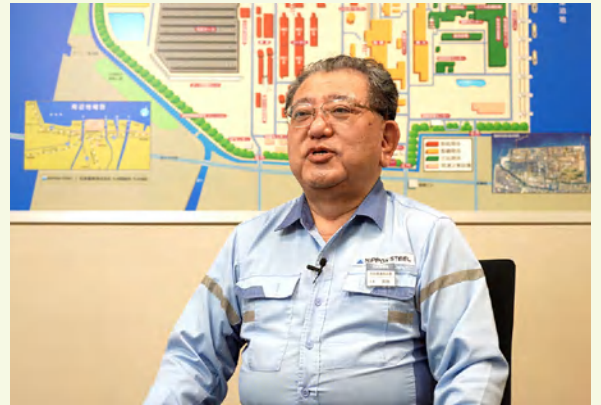
case.1

大分県内における企業や団体が独自に取り組んでいる森づくりの事例をご紹介します。

日本製鉄株式会社 九州製鉄所大分地区（大分県大分市西ノ洲1番地）



幅 50m、延長 5000m の森



安全環境防災部 大分環境防災室 主査 たけだ ひろあき 武田 宏昭さん



はじめ

1961年、新日本製鉄大分製鉄所の埋立地に工場緑化の一環として緑化を行いました。埋立地だったことからほとんどが枯れてしまいました。そこで1971年に当時の新日本製鉄環境管理室が、自然と人間の共生を目指し研究していた故・宮脇昭先生（当時、横浜国立大学助教授）へ依頼して、郷土（ふるさと）の森づくりが始まりました。

森づくりの取組

宮脇先生による現地植生調査の後、植物生態学に則った郷土樹種による緑化を行いました。従業員や家族も一緒になり、宇佐神宮のドングリヤ、シラカシ、アラカシ、コジイなどを植えて幅50m、延長5000mの森をつくりました。今では全国にある日本製鉄の10工場で、約830ha（東京ドーム約180個分）にもおよぶ森になっています。

未来に向けて

森にはウグイス、スズメ、ツバメ、ハト、ウミウ、カワウ、タヌキ、イタチ、カエル、カニ、ネコなど多くの生物が見られ、CO₂吸収源の働きに加えて生物多様性の保全にも役立っています。また森の中にはお地蔵様を祀っており、春と秋には地域の方々と一緒に例大祭を行っています。多様な生物の生息地であり地域の方々とつながりを担う森を、末永く守り育てていきたいです。



郷土の森づくりをスタート（1971年当時）



地域と繋がり共に守る



郷土樹種による森づくり



日本製鉄株式会社 九州製鉄所大分地区

〒877-0902 大分県大分市西ノ洲1番地

日本製鉄株式会社 九州製鉄所大分地区

[ホームページはこちら](#)



日本製鉄株式会社 郷土の森づくり

[ホームページはこちら](#)

